



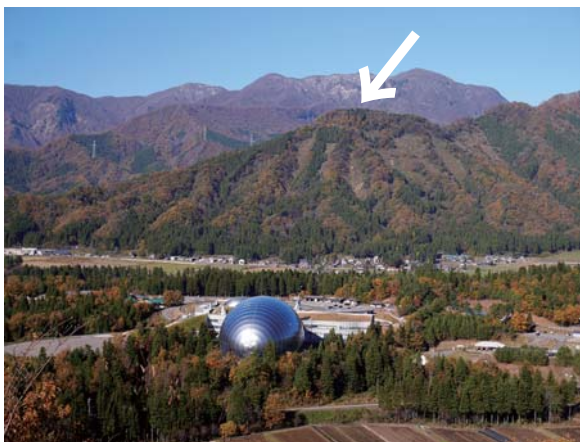
## 第4回

# 越前一向一揆 野津又城

(福井県勝山市野向町深谷)

鳥越一向一揆歴史館友の会/北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は令和5年企画展『「一紙半銭」の戦い(愛山護法の戦い)』でパネル展示されました勝山市の野津又城を紹介します。勝山から大日峠を越えて加賀に抜ける街道が山裾を通る交通の要衝に、一向一揆の指導者嶋田将監正房が築いた城と伝えられます。正房は西光寺城(勝山市鹿谷町西光寺)を本城とし、檀ノ城(勝山市荒土町堀名)、谷城(勝山市北谷町谷)、三室山城(勝山市遅羽町嶮崎)の城主と伝えられる北袋(勝山市中心部あたり)一帯を支配する越前朝倉氏に仕えた在地領主でした。天正元年(1573)8月、主君の朝倉義景は一族の景鏡が織田信長に寝返って滅亡した。野津又城を含む支城群は景鏡を匿った平泉寺を攻める拠点として築城され、天正3年8月越前一向一揆掃討のため越前に進攻した織田軍に相対しました。



村岡山城の主郭から見る野津又城

野津又城は高尾山(高尾岳・525m)の山頂部に築かれ、三方を急峻な斜面に囲まれた要害で東側の尾根続きに堀切や虎口を設けて防衛しています。阿波賀街道や北袋一帯を広く見渡せることから、敵軍の動向をつぶさに監視できたと思われます。天正3年9月、支城のひとつ檀ノ城は織田軍に攻められて落城し、檀ノ城(比高60m)や西光寺城(同120m)では織田軍の攻撃に耐えきれないと考えた正房は野津又城(同330m)に籠城して抵抗しました。本願寺顕如は天正3年8月22日付で北袋53ヶ村宛に、同年11月9日付で嶋田将監宛に、翌4年5月28日付で北袋野津又在城衆中宛に書状を下しました。そこには野津又村に創建された長勝寺の存在があり、顕如支援の功により長勝寺は超勝寺末寺から本願寺直参となったのです。果たして野津又城に籠城し続けた門徒衆の心の支えは何だったのでしょうか。加賀で実現した本願寺主導の統治への憧れか、なで殺しも躊躇しない織田信長の恐れであったのか。晩秋に冠雪した壮麗な白山に疲弊した門徒衆の心も一時の安らぎを得ていたことでしょうか。

野津又城は高尾山(高尾岳・525m)の山頂部に築かれ、三方を急峻な斜面に囲まれた要害で東側の尾根続きに堀切や虎口を設けて防衛しています。阿波賀街道や北袋一帯を広く見渡せることから、敵軍の動向をつぶさに監視できたと思われます。天正3年9月、支城のひとつ檀ノ城は織田軍に攻められて落城し、檀ノ城(比高60m)や西光寺城(同120m)では織田軍の攻撃に耐えきれないと考えた正房は野津又城(同330m)に籠城して抵抗しました。本願寺顕如は天正3年8月22日付で北袋53ヶ村宛に、同年11月9日付で嶋田将監宛に、翌4年5月28日付で北袋野津又在城衆中宛に書状を下しました。そこには野津又村に創建された長勝寺の存在があり、顕如支援の功により長勝寺は超勝寺末寺から本願寺直参となったのです。果たして野津又城に籠城し続けた門徒衆の心の支えは何だったのでしょうか。加賀で実現した本願寺主導の統治への憧れか、なで殺しも躊躇しない織田信長の恐れであったのか。晩秋に冠雪した壮麗な白山に疲弊した門徒衆の心も一時の安らぎを得ていたことでしょうか。

北袋  
五月廿八日  
野津又在城衆中へ

天正四年本願寺顕如書状(長勝寺文書)  
熊染筆候、仍当山中之儀、いまに相拘候て敵を支、おりくハ打出成其働由、忠節無比類候、然処兵粮払底二付て及迷惑由、尤歎入候、此山中敵の手二入候ハ、加州までも大事二候間、如何様にも各相談、籠城つゝ、き候様に馳走肝要候、此度之儀仏法再興とも、又ハ聖人へ報謝とも、これに過たる儀不可在之候、将亦信心を能々たられ候へく候、もろくの雜行をすて、一心に弥陀を頼申さむ人々ハ、かならず仏の御心にかなひ候て、極樂に往生すへき事疑有間敷候、此うれしさありかたさにハ、行住座臥に念仏可申候、猶少進法橋可令演説候也、穴賢々々、(下間仲之)

顕如(花押)

参考資料  
「越前中世城郭  
図面集Ⅰ  
越前北部編」

「勝山市史  
第二巻  
(原始～近世)」

「福井県史  
資料編7(中  
・近世五)」他



山頂の白山神社奥宮(野津又城主郭)



高尾山登山道から見る白山